

スコッチウイスキー産地別(4) キャンベルタウン 港町の潮の香～再興が期待される注目地



キャンベルタウンはスコットランドの西端、アーガイル地方のキンタイア半島の先端の港町。アメリカへの玄関として栄え、かつては最大級の産地で、竹鶴政孝が研修した地としても有名。大恐慌時代に衰退し、今は3蒸留所5銘柄となっていますが再興計画が進行中です。港町特有の独特な塩辛さが特徴で、再発展が楽しみな地域です。

キャンベルタウンのウイスキー お好きなだけ
会費3000円 (おつまみ付き・飲み方は自由)

10月19日(金)、26(金)、27(土) 他の日も応相談
17:00 - 20:00 事前連絡要 於: Café & Bar 朝堂院



グレンスコシア蒸留所

1828年に設立されて以来続く古い蒸留所。途中、何度か閉鎖されたり所有者が変わったが、現在まで引き継がれてきた。そして近年、設備投資がなされ発展が期待される。

グレンガイル蒸留所



1872年にスプリングバンクのオーナーによって設立される。1919年に売却され1925年に閉鎖されたが、2004年にスプリングバンクによって再開された。

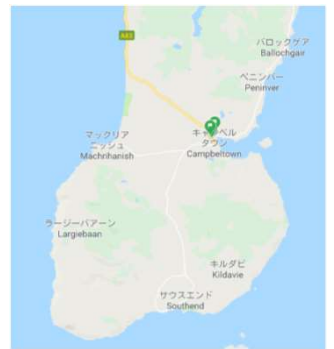
キャンベルタウンはアーガイル地方のキンタイア半島の先端。町名はアーガイル公キャンベルに因んでいる。人口は5000人ほどの港町。



GLEN SCOTIA CAMPBELTOWN HARBOUR (40%)
ボトルにはSea Splay & Gentle Smokeと書かれている。更に港町の様子が描かれている。辛口。カカオやバニラの芳ばしい甘み。ヨード感があって潮っぽい。ソーダ割もOK。



KILKERRAN 12 (46%)
2004年に再開されたグレンガイルの看板ブランド。12年物はリリースされたばかりの貴重品である。今後が期待される。甘口。バニラと蜂蜜。軽いピート香が海風を感じる。ストレートが最適。



スプリングバンク蒸留所

1828年にミッチェル一家によって創業された。以降、堅実な経営で不況時代も乗り越えて今日に至る。閉業した蒸留所ブランドの再興を行い複数の蒸留、ブランドを保有する有力蒸留所。



HAZELBURN (46%)
ヘーゼルバーン蒸留所は1825年に創業し1920年にスプリングバンクに買収されたが1925年に閉鎖された。その後、1997年にブランドが再開された。全盛期は地域で最大規模の蒸留所で、竹鶴政孝が研修した。ノンピート、3回蒸留。ライムなどの柑橘系の味わい。ハニー・バターのこってり感。加水で更に風味が出る。



SPRINGBANK 10 (46%)

蒸留所のスタンダード。辛口。潮の香りがほんのりスパイシー。バターとやや柑橘系。ピート香も程よい。バランスがある。加水で華やか・フルーティーになる。



SPRINGBANK 15年 (46%)

蒸留所の逸品。シェリー樽で熟成され、華やかで濃密。モルトの香水と言われる。食後酒に最適。ダークチョコレートを思わせるが、塩気が隠れていてピリッとする。



LONGROW (46%)
ロングロウ蒸留所は1824年の創設で非常に古いが1896年に閉鎖され、1973年にスプリングバンクによってブランドが復活された。50ppm以上のヨード価があり、ピート臭は強い。スモーキーでクリーミー。ソーダ割やロックも美味しい。

